

宇陀市学校適正化推進委員会だより

答申の具体的な内容について更に深めていく**1 第9回宇陀市学校適正化推進委員会を開催しました！**

令和5年8月8日（火）に市役所大会議室において、第9回宇陀市学校適正化推進委員会を開催しました。各団体の役員改選等にもなって、下記のとおり委員の変更がありました。今回は、前の推進委員会で確認された内容を受けて、「小中学校の適正化の具体的な在り方」「適正化により充実を期待する教育内容」について各委員から事前に事務局に送ってもらった意見をまとめ、それらを基に答申の具体的な内容について更に協議をしました。

			委員氏名	備 考
1	P T Aの代 表者	大宇陀地域	橋本 真弓	大宇陀小学校P T A
2		菟田野地域	堀内 伸樹	菟田野小学校P T A
3		室生地域	北森 克弥	室生小学校P T A
4	自治会代表者	室生地域	曾良 幸雄	室生連合自治会長

※堀内委員は第8回推進委員会から変更されています。

2 委員による意見**○「小中学校の適正化の具体的な在り方」で出た意見**

- ・イの案では、最終4つの地域に小中一貫校となっているが、現状から考えるとさらに人数は減る。複式学級ができてしまうことも気になる。答申には中間見直しを行うという付帯事項のようなものを付け加えてはどうか。
- ・令和19年度に4地域に小中一貫校というのを、令和14年度に早めてもいいのではないかな。
- ・小中一貫校は施設一体型が望ましい。学校が別々であれば、子どもの数に対して施設が大きすぎるや維持管理の問題がでてくる。施設も年々老朽化するため、それを残すには費用がかかる。
- ・施設分離型の小中一貫校とし、現存する学校（校舎）は全部残していった方がよい。
- ・できるだけ現在の施設を利用しての学校運営が理想ではあるが、施設によっては築年数も古く適正規模への建て替えも検討する必要がある。
- ・榛原地域の小学校については、榛原西小学校、榛原東小学校と二段階で統合するのではなく、1度に統合してはどうか。学校の統合といったような経験は、何度も経験することは避けてあげたい。

○「適正化により充実を期待する教育内容」で出た意見

- ・教育内容の詳細については、市の教育の指導方針に盛り込まれている。我々としては宇

陀市ならではのパンチのある特色というか、教育の方向を出せたらよい。

- ・ 誰一人取り残さない教育。不登校、外国籍、いろいろな支援を要する人を受け入れられる多様性のある学校教育。
- ・ 宇陀市の特性を活かした食と農の体験型学習やプロジェクト型学習。
- ・ STEAM 教育をはじめ、ICT と英語コミュニケーション、グローバルな視点は外せない。
- ・ アントレプレナーシップ教育を推進する。起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）と起業家的資質・能力（情報収集、分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション等）を育成する。
- ・ 地域に学校を残すためにも、コミュニティ・スクールは直ちにスタートさせなければならないということを答申に盛り込む必要がある。
- ・ 先生や保護者、子ども達がつながることを大切にしていけば、自ずと小中一貫校のような学校になっていく。
- ・ 宇陀市全体を1つの学校として考えるために学校自由選択制は必要である。

3 当日、話し合った内容や次回の委員会で話し合われること

第9回の推進委員会では、「期待する教育内容」についてコミュニティ・スクールや小中連携等、宇陀市として特色のある教育について具体的な意見が出ました。また「適正化の具体的な在り方」については、子どもの人数予測などから、再度開始時期についても検討することを確認しました。

次回の委員会では、事務局から今回の委員会で話し合った内容をベースに答申（案）を示し、その中身について協議をします。

4 ご意見をお聞かせください！

次回、第10回宇陀市学校適正化推進委員会は、令和5年10月12日（木）に宇陀市役所4階大会議室で行う予定です。（会議は傍聴可能です。）推進委員会に対するご意見は、郵送またはメールでお寄せください。（電話でのご意見は控えていただきますよう、お願いいたします。）なお、ご意見は市民からのものであることを確認するため、必ずご住所とお名前をフルネームで明記してください。

郵送の場合：〒633-0292 奈良県宇陀市榛原下井足17番地の3

宇陀市教育委員会事務局 教育総務課 宛

メールの場合：soumu-tekisei@city.uda.lg.jp



※会議の詳細については右のQRコードまたは「宇陀市学校適正化」で検索して市のホームページをご覧ください、

